

「令和4年度 常磐中学校についてのアンケート」の結果及びその考察

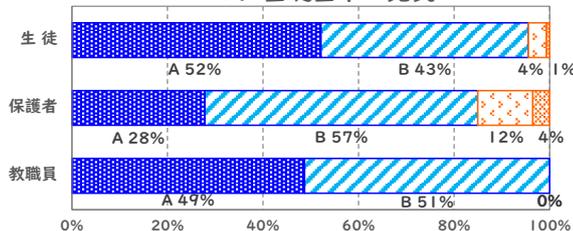
令和4年12月に実施しましたアンケート結果とその考察を報告します。

本校では、学校教育目標を「生き生きと輝く」とし、確かな学力と豊かな心と健やかな体を育み、生き生きと輝く生徒の育成を図ることを目指して教育課程を編成し、教育活動を行っています。

アンケートでは、生徒や保護者のみなさんから本校の教育活動に対する貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見は、今後の教育活動に役立てるように各種会議で検討いたしました。生徒や保護者のみなさんの期待に応え、また、地域の方々から信頼されるよう、よりよい学校づくりを目指して、教育活動の実践に努めてまいります。

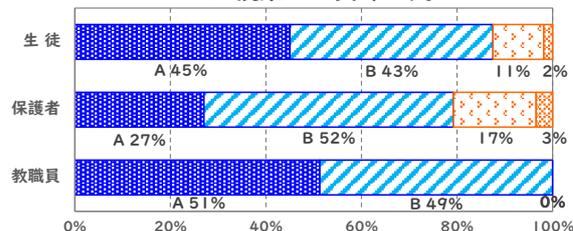
A:あてはまる(そう思う)
 B:ややあてはまる(だいたいそう思う)
 C:ややあてはまらない(あまりそう思わない)
 D:あてはまらない

1. 基礎基本の充実



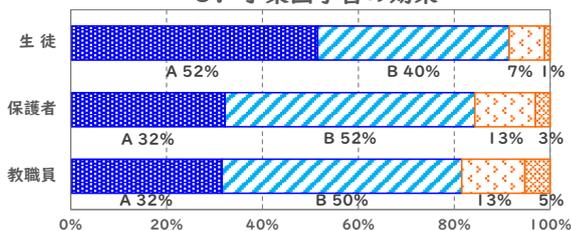
生徒	先生たちは、基本的な内容をわかりやすく教えてくれる。
保護者	お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。
教職員	授業で基礎基本を明確にし、分かりやすい指導をしている。

2. 授業への興味・関心



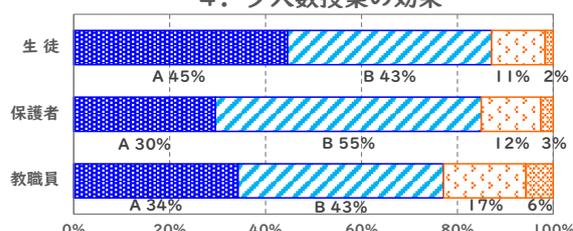
生徒	授業を受けていて「おもしろい」と感じたり、「もっと学びたい」と思ったりしたことがある。
保護者	お子さんは、授業に興味をもって取り組めると言っている。
教職員	授業の中で生徒が意欲的に取り組むために教材や授業展開の工夫をしている。

3. 小集団学習の効果



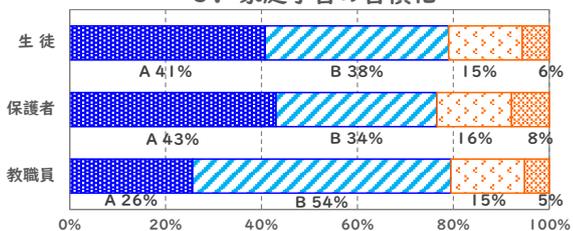
生徒	班やグループによる学習は、お互いに教えあったり、話し合ったりしてわかりやすい。
保護者	お子さんは、班やグループによる授業は、わかりやすいと言っている。
教職員	小集団やTTIによる授業は生徒が主体的に学習に取り組んだり、思考を深めていくうえで効果的であった。

4. 少人数授業の効果



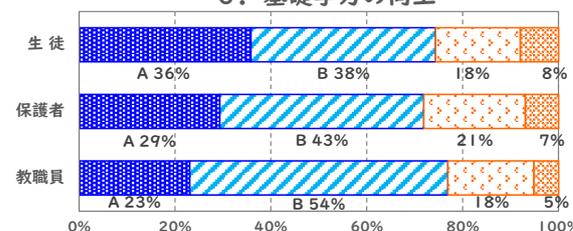
生徒	少人数や複数の先生で行われる授業は、わかりやすい。
保護者	お子さんは、少人数や複数の先生で行われる授業は、わかりやすいと言っている。
教職員	少人数やチーム・ティーチングにより学習の効果が上がっている。

5. 家庭学習の習慣化



生徒	宿題や家庭学習を忘れずにしている。
保護者	お子さんは、宿題や家庭学習を忘れずにしている。
教職員	家庭学習の重要性を理解させ、学習習慣の定着に努めている。

6. 基礎学力の向上



生徒	基礎学習(Toki10)は、基礎学力の向上につながっている。
保護者	基礎学習(Toki10)は、お子さんの基礎学力の向上につながっている。
教職員	基礎学習(Toki10)に落ち着いて取り組み、基礎学力の向上につながっている。

【確かな学力の定着と指導の充実】(質問1~6)

○質問1~4では、肯定的な回答が、生徒の約9割、保護者の約8割を超えて、ある程度高い水準です。

授業では、学習の「めあて」や「見通し」を明確にして、学習後に生徒自身が「何がわかったのか」「何ができるようになったのか」を振り返ることなど、生徒が達成感を感じられるように工夫しています。また、生徒が1人1台タブレットを日常的に使うようになり、より効果的にICTを活用することや、感染症対策をしながら小集団学習をより有効な場面で行うことなど、よりよい授業展開を工夫してわかりやすい授業を目指しています。生徒が「わかった」と実感できることが、学習への興味・関心も高まることにつながっていると思います。

少人数授業は、3年生数学で基礎コースと標準コースに分かれた授業を行い、また、2・3年生の英語や社会では一部(3年生英語は全部)の時間に複数の先生による授業(チーム・ティーチング)を行っています。生徒は自分にあったコースを希望して学習したり、複数の先生による授業ではわからないことを質問をしやすかったりといったメリットがあると感じています。

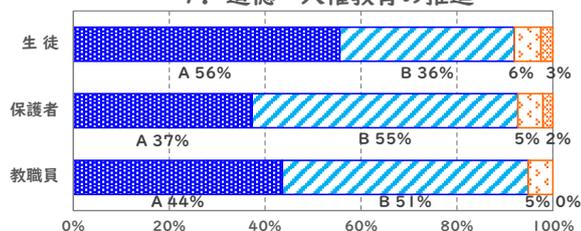
今後、さらに多くの生徒が学力の定着を実感でき、主体的に学習に取り組めるように、学力の向上を図るためのより有効な指導方法、ICTの活用、小集団の活用や振り返りの方法などについて、研修を深めて授業改善に努めたいと思います。

○質問5・6では、肯定的な回答が生徒・保護者とも約7~8割と低くはないものの、伸ばしたい内容です。

家庭学習の方法や重要性については、全体でも個別でも指導するなど、学習習慣の定着を促しています。また、今年度からは家庭でも学習にタブレットを活用できるよう持ち帰ることにしました。しかし、家庭学習がなかなか習慣化しない生徒が一定数いることも踏まえて、今後も継続的に支援していきたいと思っておりますので、引き続きご家庭でも家庭学習が習慣化するよう、ご協力をお願いします。

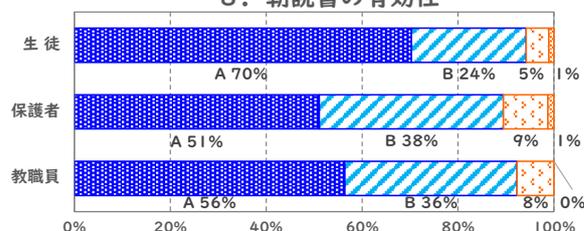
基礎学習については、1・2年生がToki10(帰学活前の10分間)、3年生が朝学習の10分間にタブレットを使った個別学習ドリルを行っています。また、3年生はToki10で受験対策用のプリント学習も行っています。各学年とも真剣に取り組んでいて効果が感じられますが、さらに多くの生徒が効果を実感できるよう、授業や家庭学習とも関連付けするなど工夫をしていく必要があると考えます。

7. 道徳・人権教育の推進



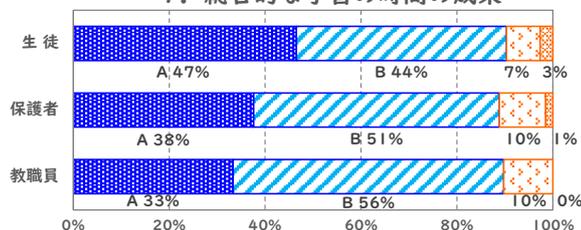
生徒	学校では、道徳や人権の大切さについてよく学習できる。
保護者	学校は、豊かな心をもち人権を大切に育てようとしている。
教職員	心の教育充実のため、道徳や人権教育の推進に努めている。

8. 朝読書の有効性



生徒	朝の読書に落ち着いて取り組んでいる。
保護者	おさんは、朝の読書に落ち着いて取り組んでいると言っている。
教職員	生徒は、朝の読書に落ち着いて取り組んでいる。

9. 総合的な学習の時間の成果



生徒	総合的な学習の時間(福祉体験・キャリア学習等)で意欲的に取り組むことができている。
保護者	学校は、総合的な学習の時間(福祉体験・キャリア学習等)を通して自ら学び、行動する力をつける教育をしている。
教職員	学校は、総合的な学習の時間における体験活動を通して、自ら学ぶ主体的な生徒の育成に努めている。

【豊かな人間性の育成】(質問7~9)

肯定的な回答が生徒・保護者とも約9割で、ある程度高い水準です。

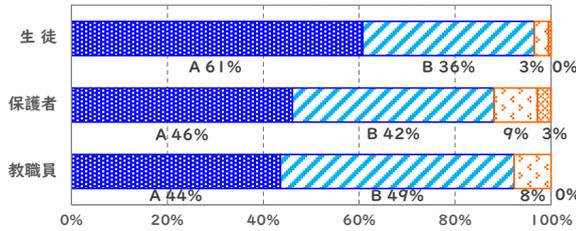
道徳の授業や人権学習でも、ICTを活用して生徒の意見を多く交流できるようにするなど、考えが深まるようにしています。また、今年度は「いじめ防止」をテーマにした人権講演会、1年生が常磐・常磐西小学校の6年生とともに学習する人権フォーラムなども行いました。

朝の読書では、チャイムとともに静かな雰囲気の中で読書(3年生は朝学習)を始めています。このことが、1日の学校生活にもよい影響を与えていると考えています。

総合的な学習の時間には、3年間を通して進路学習・キャリア学習に取り組み、1年生では様々な職業の方から話を聴く職業ガイダンス「ザ・プロフェッショナル」、2年生では「職場体験学習」を行い、3年生での進路選択につなげています。また、1年生で福祉体験学習としてSSピンポンを体験するなど、様々な活動を取り入れながら学習を進めています。

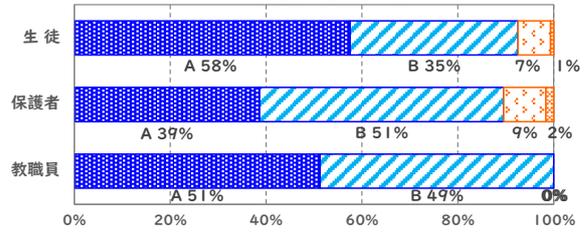
今後も、教師自身が道徳性や人権感覚を磨くとともに、生徒の豊かな人間性の育成を目指して、生徒が主体的に学ぶことができる活動を進めていきます。

10. 生活習慣の定着



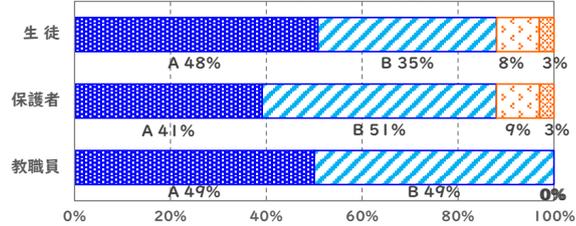
生徒	「あいさつをする」「時間を守る」「身なりを整える」がきちんとできている。
保護者	お子さんは、家庭や地域で、きちんとあいさつしている。
教職員	「挨拶をする」「時間を守る」「身なりを整える」等の基本的な生活習慣の徹底に努めている。

11. 授業規律の確立



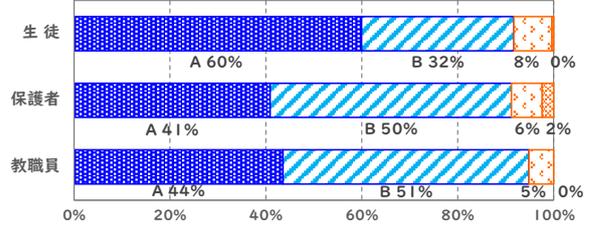
生徒	授業の規律を守り、落ち着いて授業を受けている。
保護者	学校では、授業が落ち着いて行われている。
教職員	落ち着いて授業が行われるように指導の工夫をしている。

12. 生徒理解の充実



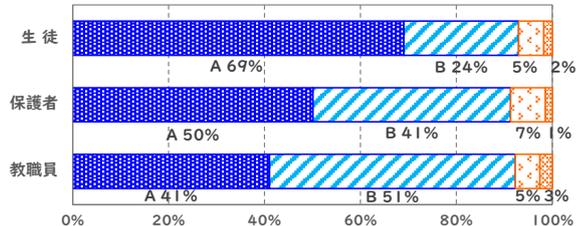
生徒	先生たちは、いろいろな相談に乗ってくれる。
保護者	お子さんは、先生と話しやすく、相談がしやすいと言っている。
教職員	生徒と気軽に話し合える関係をつくり、相談しやすいように努めている。

13. 生徒指導体制の充実



生徒	先生たちは、いじめや悪いことをしたとき、きちんと指導してくれる。
保護者	学校は、いじめや暴力などさまざまな問題を見逃さずに指導している。
教職員	生徒指導上の問題が発生したとき、組織的に対応できる体制が整っている。

14. 部活動の充実



生徒	部活動に積極的に参加し、熱心に活動している。
保護者	学校は、部活動指導に積極的に取り組んでいる。
教職員	部活動の指導に積極的に取り組んでいる。

【生徒指導・生徒理解の充実】(質問10~14)

肯定的な回答が生徒・保護者とも約9割を超えていて、ある程度高い水準です。

あいさつについては、毎週木曜日、生活委員会の教員と生徒を中心に「あいさつ運動」を社協のあいさつ運動と共に行っています。しかし、自分からあいさつできない生徒やあいさつの声が小さい生徒などがあることは課題となっています。身なりについては、毎朝の学活で生活委員が点検を行い、時間を守るについても、生活委員や室長を中心に生徒同士が声をかけあって、開始の3分前には授業の準備をして着席していることが習慣になっています。授業づくりの工夫とともに、このような生徒主体の取組が授業の規律を守ることに繋がっていると思います。

授業や部活動はもちろん、休み時間も「ふれあいタイム」として教員が生徒の様子を見て積極的に関わり、生徒の理解を深め、よりよい関係づくりの機会としています。他にも、毎日の連絡ノートや毎学期の教育相談など様々な機会をとらえて、生徒理解・関係づくりを進めています。

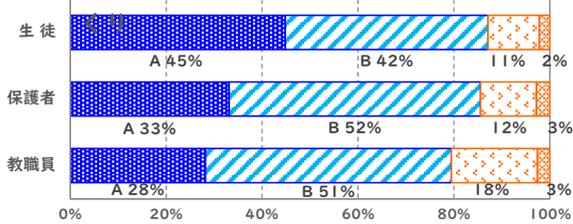
各学期に行っている「いじめ調査」だけでなく、連絡ノートの記述や教育相談の内容、生徒の様子の変化などから、積極的にいじめ等の問題を認知し、教職員間で情報共有、連携して早期の解決に取り組んでいます。また、近年、集団生活に不安を抱える生徒も増えていて、他にも個別の対応が必要な生徒には、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)などとも連携して対応を進めています。また、家庭でも学習を進めることができるよう、オンラインによる授業の配信も行うなどの対応もしています。

今後も、生徒が安心して相談できるような、生徒とのよりよい関係づくり、全教職員がいじめ等の問題を許さない雰囲気づくり、早期解決に向けての連携した対応、また、生徒が主体的によりよい学校にしていけるようなサポートなど、より一層努力していきます。

部活動は、自分の興味・関心に応じて活動できる場、異年齢の生徒との交流も含めて部活動だからこそ多様な経験ができる機会となっています。競技力や技能の向上だけでなく、社会性を身に付けるなどの場となっています。四日市市部活動ガイドラインに基づき、週に2日間の休養日や放課後2時間以内、休日3時間程度の練習などを原則として、短時間に集中して活動しています。また、校外活動部に所属して、より自分の興味・関心に応じた場所で活動する生徒も増えています。

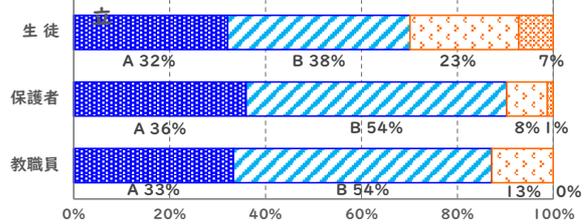
すべての顧問が指導する部活動の経験があるわけがありません。一部の部活動では部活動指導員も活用され始めました。今後、部活動指導員の活用も含め、顧問も生徒と一緒に学びながら、より充実した部活動となるよう努めます。

15. 保護者・地域との協働による授業づくり



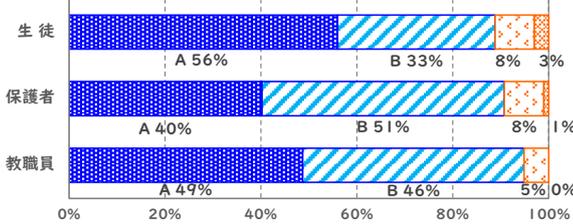
生徒	地域の方々に教えていただく体験学習や人権・進路学習などは意欲的に取り組める。
保護者	お子さんは、地域の方々に教えていただく体験学習や人権・進路学習などは興味をもって取り組めると言っている。
教職員	体験学習や人権・進路学習などを地域・保護者の方々と共に行う企画づくりに努めている。

16. 保護者・地域の意見の把握、協力体制の確



生徒	授業参観・学校公開や行事などに保護者や地域の方の参加が多い。
保護者	学校は授業を公開し、地域や保護者から意見を聞き、保護者の理解と協力を得ようとしている。
教職員	授業公開や懇談会を通して、地域や保護者から意見を聞き、理解と協力を得ようとしている。

17. 家庭への情報発信



生徒	家の人に通信や学校から配られた書類をきちんと渡している。
保護者	学校は、懇談会や通信・ホームページで学校や子どもの様子をわかりやすく伝えている。
教職員	学校は、保護者に通信や懇談会などで学校や子どもの様子をわかりやすく伝えている。

【保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり】(質問15~17)

質問16の生徒の肯定的な回答が約7割で、それ以外は生徒・保護者とも肯定的な回答が約9割になっています

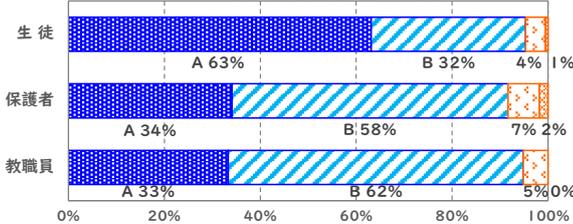
1年生の「ザ・プロフェッショナル」ではPTAの方に講師の選定などをご協力いただき、また、2年生の「職場体験学習」は3年ぶりに実施でき、地域の職場の方々に協力いただきました。コロナ禍での実施のため受け入れていただけない事業所も多く、体験先を探すにあたっては学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の委員の方にもご助言いただきました。他にも、常磐地区人同協による「人権啓発標語」の取組など、保護者や地域、関係機関との連携・協働による取組を行いました。

学校公開は、今年度当初の予定通り3回行うことができました。体育祭は3年生の保護者のみの限定でしたが3年ぶりに直接参観していただくことができました。文化祭は今年度も感染症対策の観点からオンライン配信による公開となりました。コロナ禍のため、活動の様子を参観していただく機会が限定されていますが、今後も状況を踏まえながら、可能な範囲で参観の機会を設けていきたいと考えています。

また、定期的に「学校だより」や「学年通信」などの発行、ホームページの更新などをしており、保護者のみなさまに読んでいただいているようです。

今後も、家庭・地域・関係機関のみならず、地域の子どもたちをよりよく育てていきたいと思ひます。そのため、生徒や学校の様子などわかりやすく伝えて情報共有・共通理解を図っていきます。また、保護者や地域等と連携・協働した取組を行い、地域全体で子どもたちを育てていく雰囲気醸成していきます。

18. 特別支援教育の充実



生徒	障がいがあってもなくても、自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加できている。
保護者	障がいのある子もいない子も、自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加できている。(特別支援教育の充実)
教職員	障がいのある子もいない子も、自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加できるようにしている。

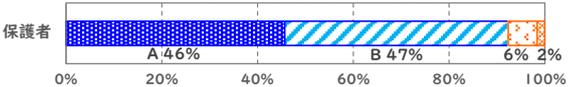
【特別支援教育の充実】(質問18)

生徒・保護者とも9割を超える肯定的な回答となっています。

生活学級の生徒が他の生徒と共に活動することは、双方にとって大切な学習の機会になっています。教職員にとっても、個に応じた支援や配慮について研修し学ぶことが、すべての生徒にとってわかりやすく安心して生活できる環境づくりに役立っています。

今後も、教職員が特別支援教育についての研修を深め、生徒が互いに正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができるよう取組を進めたいと思ひます。

19. 学校指定品の適切さ



保護者	学校指定の物品(制服・体操服・体育館シューズ・スリッパなど)は、適切である。
-----	--

【学校指定品の適切さ】(質問19)※今年度から新規の質問

今年度から保護者にのみ回答いただきました。

9割を超える肯定的な回答をいただいています。

学校指定の物品については、品質と価格のバランスを考慮しつつ、適正な物品選定に努めています。また、制服については、昨今の値上げの影響を想定し、複数の業者を指定して選択できるようにしています。

今後も、見直すべき点がないか検討していきます。

※記述によるご意見・ご要望について

上記の項目にない内容も含めて、ご意見・ご要望をいただきました。

いただきましたご意見・ご要望については全教職員で共有し、すぐに改善できるものについては対応したり、ご意見・ご要望をもとに検討したりしております。

施設面についてのご要望については、今年度、校舎の一部の改修、体育館の補修が行われました。さらに来年度には校舎の残り部分の改修が行われます。その他の要望については、学校からも引き続き要望していきます。

ご意見の中には、感謝・激励のお言葉もいただきました。中学生の3年間は自分で進路を切り拓いていくように大きく成長する時期であり、その大切な時期のお子様をお預りしている私たち教職員も責任の重大さを痛感しながら日々の教育活動を行っています。そんな中、感謝・激励のお言葉をいただき、大変ありがたき思い、勇気をいただきました。

今後も、ご家庭や地域、関係機関と協力して、生き生きと輝く生徒の生徒の育成を目指し、学校としても改善に努めたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。